



▲八火図書館・宮原振興局の複合施設(基本設計イメージ)



▲光永星郎氏

生涯学習の拠点である氷川町公民館多目的ホールの音響の改修とプロジェクト機器を整備し、施設の活用を促進します。



▲防災備蓄倉庫(学校給食調理場東側)

安全で快適な生活環境のまちづくり

地球環境への負荷軽減による自然と共生するまちづくりを目指して、太陽光発電施設などの費用助成を行う住宅用新エネルギー等導入促進事業を継続して取り組みます。

生ごみ減量化を目指した電気式生ごみ処理機購入助成は、継続して実施することとし、積極的に普及促進を図ります。

集落内の道路・河川および排水路につきましては、氷川町道路整備基本計画と地区からの要望との整合性を図りながら、社会資本整備総合交付金などの国・県の事業を積極的に活用しつつ、優先順位を付けて整備を行うこととしています。

ト調査分析事業を継続して取り組みます。また、公営住宅等長寿命化計画に基づき、老朽化した町営住宅の整備に着手します。

▲地域活性化に期待される宇城・氷川スマートインターチェンジ

住民自治を支える行政運営の推進

行政運営には必要性、計画性、実行性、継続性、創造性が重要と考えます。

第1次氷川町総合振興計画の後期5年の計画と地区別計画のそれぞれの計画を基本に行政運営を進めてまいります。

自主財源を確保することは行政を運営する上で、大変重要でありますので、本年度導入した滞納整理支援システムを活用し、滞納整理の推進と収納率の向上を目指します。

さらに効率のよい機能的な行政組織とするため、役場機構の改革と職員の能力開発にも尽力してまいりたいと考えております。

住民主役のまちづくりを進めていく上では、町民の皆さまとの対話と協力が重要であります。本年度も町政懇談会を実施するとともに、情報を共有する必要があるため、できる限りの情報提供に努めてまいります。

堅実な行政運営を行うためにも、行政改革に努めてまいります。

以上、5つのまちづくり戦略を平成26年度の町政運営の基本方針として、安心して暮らせる幸せを実感できる氷川町の創造を目指して、全身全霊を傾注して、危機感と緊張感を持って取り組んでまいれる所存でございますので、町民の皆さまのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

氷川町長 藤本 一臣

副町長・教育長就任あいさつ

3月定例議会における議会の同意を得て、副町長に平逸郎氏、教育長に太田篤洋氏が就任しました

副町長 平 逸郎



このたび、議会の同意を頂き、4月1日付けをもちまして副町長に就任いたしました平逸郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

教育長 太田 篤洋



このたび、教育長を拝命いたしました太田篤洋でございます。これまで38年間、県内の学校や教育行政に勤務してまいりましたが、ふるさと氷川町の教育に再び関わらせていた

現在、少子高齢化による人口減少、消費税のアップ、実感できない経済の好転など、社会環境は依然厳しい状況ですが、町では健全な財政基盤を確立しつつ、より自立した地方行政の運営が求められております。

か成長しています。さらに学校・家庭・地域社会が連携協働し、子どもたちの可能性を引き出す教育の実現を目指してまいります。